

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170600150
法人名	医療法人 恵愛会
事業所名	グループホーム ゆつたら〜と
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101番地3 (電 話) 0954-22-0070

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年4月28日	評価確定日	平成 21年5月25日

【情報提供票より】(平成21年4月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	17 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 17.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成 21年4月28日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	石橋リハビリテーション病院・寺尾歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲は緑豊かで自然の多い静かな環境である。木造平屋の2ユニットのホームは、傾斜の土地に2つのユニットが並んで立てられているため、外観は2軒の家が独立して建てられているように見える。ユニットがそれぞれの個性を十分に発揮し、2ユニットで一つではなく、各ユニットの入居者同士は「隣に住んでおられる近所の人」のような感覚で生活されている。それぞれのホームの中心に中庭が設けられており、フロアに自然光が差し込んで、プランターに植えられた花々から四季を感じる良い空間にもなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	看取りの指針の作成等、出来る範囲内で取り組み、改善をされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価は管理者とユニットリーダーの3人のみで行なわれている。新しい職員が採用されているので、評価の意義と理解のための勉強会や説明会を行い、評価を活かした改善に取り組むことが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	20年度は開催されていない。定期的で開催することにより、ホームのことを、家族や地域に知らせ、お互いの意見交換の場となることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に、金銭管理・職員の異動等の報告をされている。また、必要に応じて電話でも連絡をされている。今後さらに、ホーム便り等を作成し、定期的に文章等で事業所から積極的にホーム全体の様子や、職員の情報等についても家族へ報告されることが望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の運動会や地域活動、また、地区の保育所との交流、地域の春・秋の祭りの際には、ホーム前までお神輿が来るなど、積極的に相互の交流をされている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の就業心得として理事長訓辞と、「ゆっつらーと訓」として「一つ、人の和、心のふれあいを大切にします。一つ、誠意、いたわりの気持ちを大切にします。一つ、努力、向上への意欲を大切にします。」を、独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理事長訓辞を、毎朝の申し送りの際と法人全体の週1回の朝礼時に唱和している。また、以前からのホーム理念を継続して心に留め、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会や地域活動、また、地区の保育所との交流、地域の春・秋の祭りの際には、ホーム前までお神輿が来るなど、積極的に相互の交流をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は、管理者とユニットリーダーの3人のみで行われている。また、新しい職員が採用されているが、外部評価についての理解を深める取り組みはなされていない。	○	職員に、評価の意義と理解のための勉強会や説明会を行い、評価を活かした改善に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度は開催されていない。	○	定期的を開催することにより、ホームのことを、家族や地域に知らせ、お互いの意見交換の場となることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、担当の地域包括支援センター、市役所との連携が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、家族の来訪時に金銭管理・職員の異動等されている。必要に応じて電話でも連絡をされている。	○	ホーム便り等を作成し、定期的に文章等で事業所から積極的にホーム全体の様子や、職員の情報等についても家族へ報告されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに家族が話しやすい雰囲気を作り、話を聞くようにし、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑え、入居者に配慮した言葉使いをするなど入居者の混乱を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当者を決め、法人内で毎月の研修会に参加し、ホーム内での勉強会を定期的開催するように計画している。また、外部研修に参加できるように案内を周知し、参加がスムーズに出来るように取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とお互いに情報交換などして、サービスの質を向上させるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入居まで、何度も見学に来られるように家族の協力を得ながら進めている。急な入居の場合でも、馴染まれるまでは出来る限り1対1で対応されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から、料理や掃除の仕方や、昔の歌を覚えてもらうなど、共に生活をする中で入居者から学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合わせた方法で把握に努めている。把握が困難な場合は、入居者の表情・言動・様子などから総合的に判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画を立てる際は、担当者が職員に意見を聞き、また、家族には面会の際に話をしてはいるが、介護計画作成に関する検討会等が行われていない。	○	本人、家族、関係者の意見を総合的に聞くような話し合いの場を持つことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急な状況変化がある場合には、計画の見直しをしている。また、日々の中での変化は申し送りノート等で担当者に報告がされており、必要に応じて家族にも連絡し、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関へはホームからの送迎をしている。他の病院でも急な病気の場合、または、家族や入居者の希望に応じて臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は家族の希望があれば、入居前からのかかりつけ医を継続できるように支援されている。希望があれば往診の受け入れ対応もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の指針については、本人・家族には入居される際に文章で説明をし、同意を取られている。また、実際その状況になった時に、医師・家族・職員と相談し、状況に応じた対応をされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉かけや、プライバシーに配慮した対応をされている。個人情報の記録は事務所の棚の中で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるものの、入居者の希望を聞き、それに添った支援をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、献立の中に取り入れている。入居者の力に合わせて配膳・下膳・調理・片付けと一緒にされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日対応されている。冬は週に2回・夏はシャワーを含み毎日入浴されている。また、入浴の順番等も配慮されている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合わせて、好きなことや得意なことを支援されている。入居者が喜ばれる家族の面会や保育所の子どもたちとの交流は、特に楽しみの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	部屋の中に閉じこもらず、入居者の希望を聞き、なるべく外へ出て行くようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を開け、出入りは自由にできるようにしている。玄関にセンサーを備え付けてあり、安全を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回避難訓練をしている。地元の消防団等にも協力の依頼をし、働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた献立をもとに、入居者の希望を聞いて作成し、形態も一人ひとりに合わせ、摂取量も確認されている。水分も定時に提供し、量の確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンにより日差しの調整をしたり、季節ごとのカレンダー等を壁に貼り、季節感を感じることができるよう工夫されている。また、入居者の身体状況に応じて畳とフローリングの使い分けをし、居心地のよい空間になるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの好みの使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごすことができるように工夫されている。		